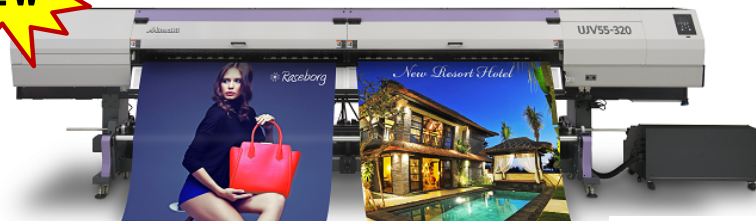


NEW UJV55-320



(2016年4月発売)

UJF-7151 plus



TS30-1300



(2016年3月発売)

2016年3月期 決算説明会 業績の実績・見通し 中長期・成長ビジョン

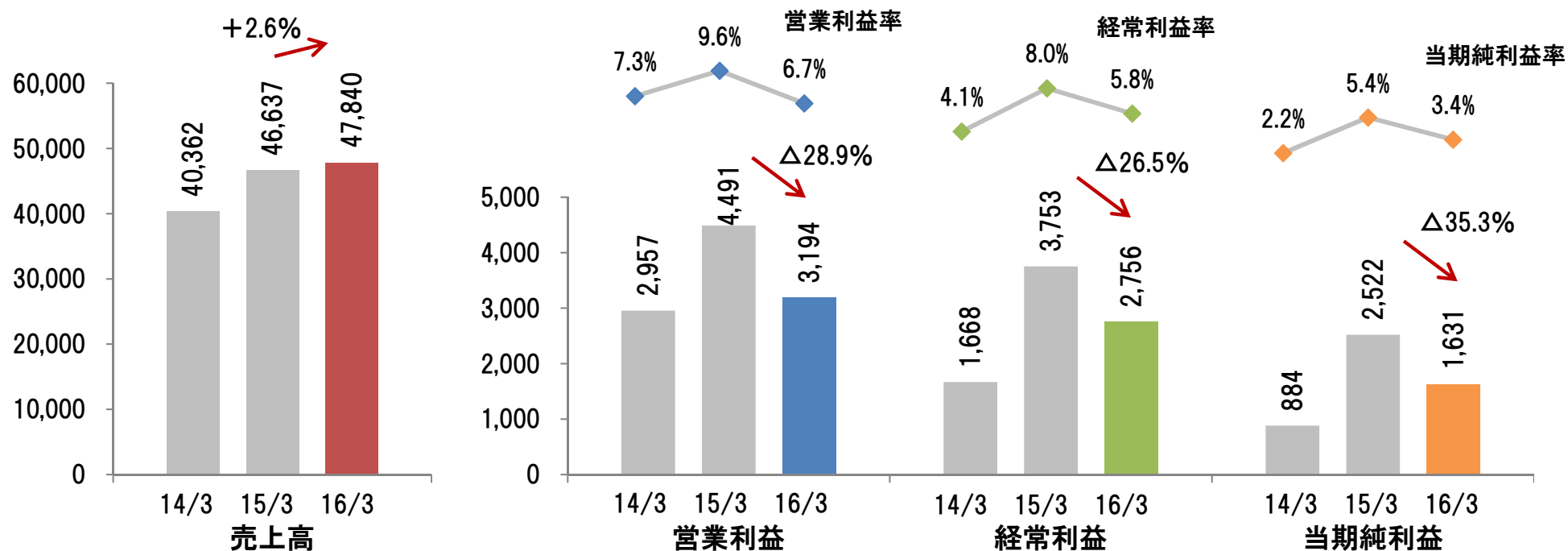
2016年5月23日



- ❖ **2016年3月期の連結業績実績**
- ❖ 2017年3月期の連結業績見通し
- ❖ 中長期・成長ビジョン
- ❖ ご参考資料

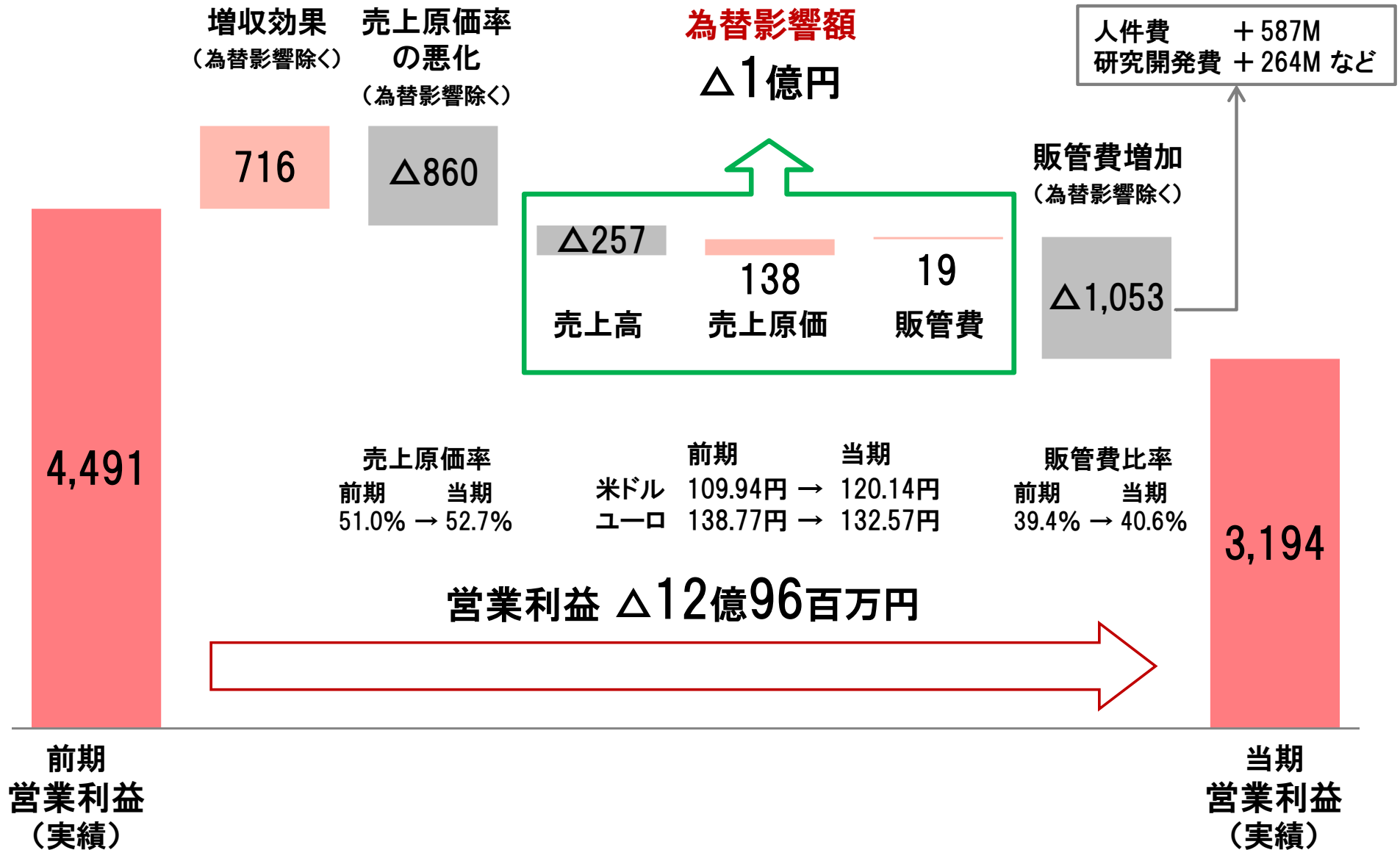
連結業績ハイライト (2016年3月期)

(単位:百万円)	通期				
	2015年3月期		2016年3月期		
	実績	構成比	実績	増減率	構成比
売上高	46,637	—	47,840	2.6%	—
営業利益	4,491	9.6%	3,194	△28.9%	6.7%
経常利益	3,753	8.0%	2,756	△26.5%	5.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,522	5.4%	1,631	△35.3%	3.4%
為替米ドル (期中平均)	109.94円	—	120.14円	9.3%	—
ユーロ	138.77円	—	132.57円	△4.5%	—



営業利益増減要因（15年3月期 vs 16年3月期）

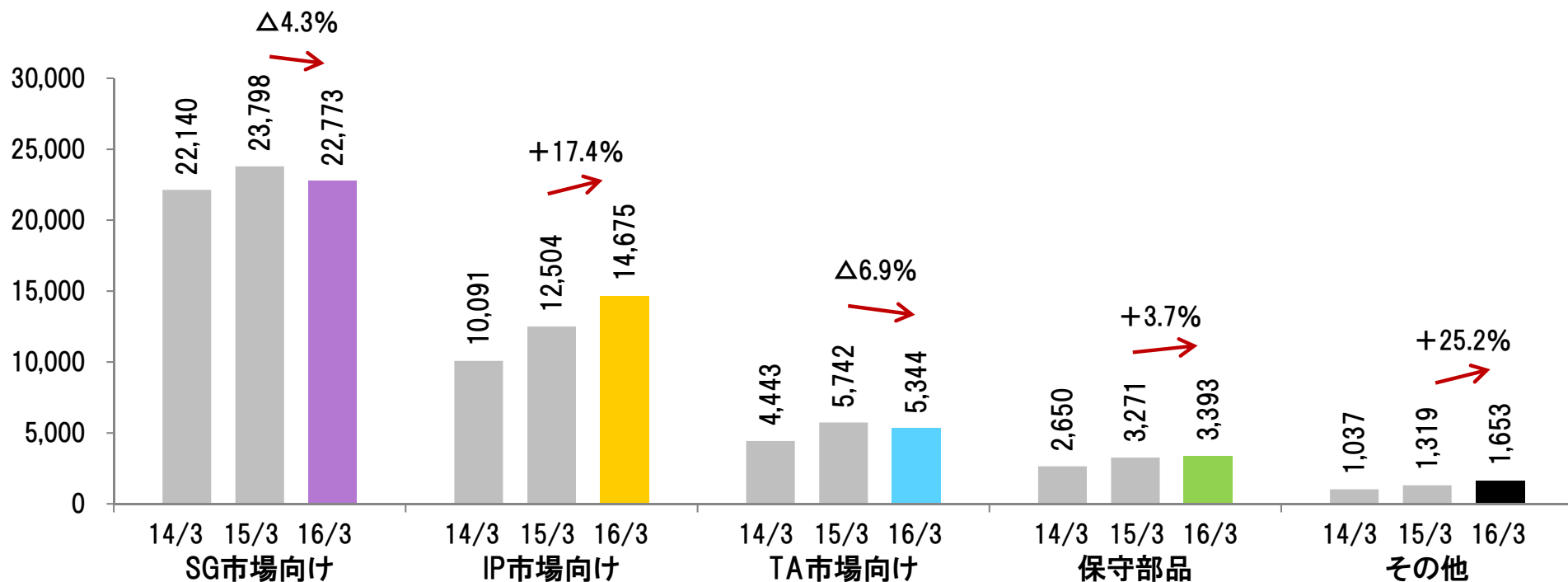
（単位：百万円）



市場別売上高

(2016年3月期)

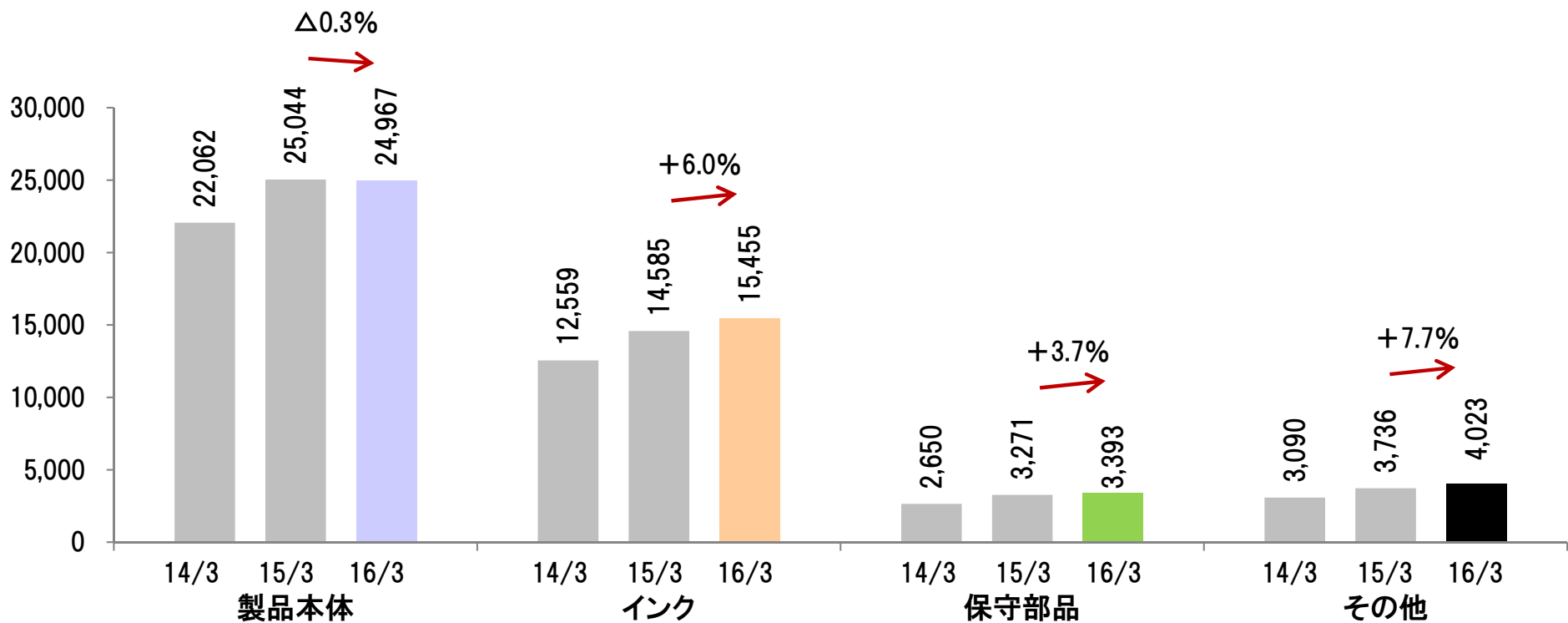
(単位:百万円)	通期				
	2015年3月期		2016年3月期		
	実績	構成比	実績	増減率	構成比
SG市場向け	23,798	51.0%	22,773	△4.3%	47.6%
IP市場向け	12,504	26.8%	14,675	17.4%	30.6%
TA市場向け	5,742	12.3%	5,344	△6.9%	11.2%
保守部品	3,271	7.0%	3,393	3.7%	7.1%
その他	1,319	2.9%	1,653	25.2%	3.5%
合計	46,637	100.0%	47,840	2.6%	100.0%



品目別売上高

(2016年3月期)

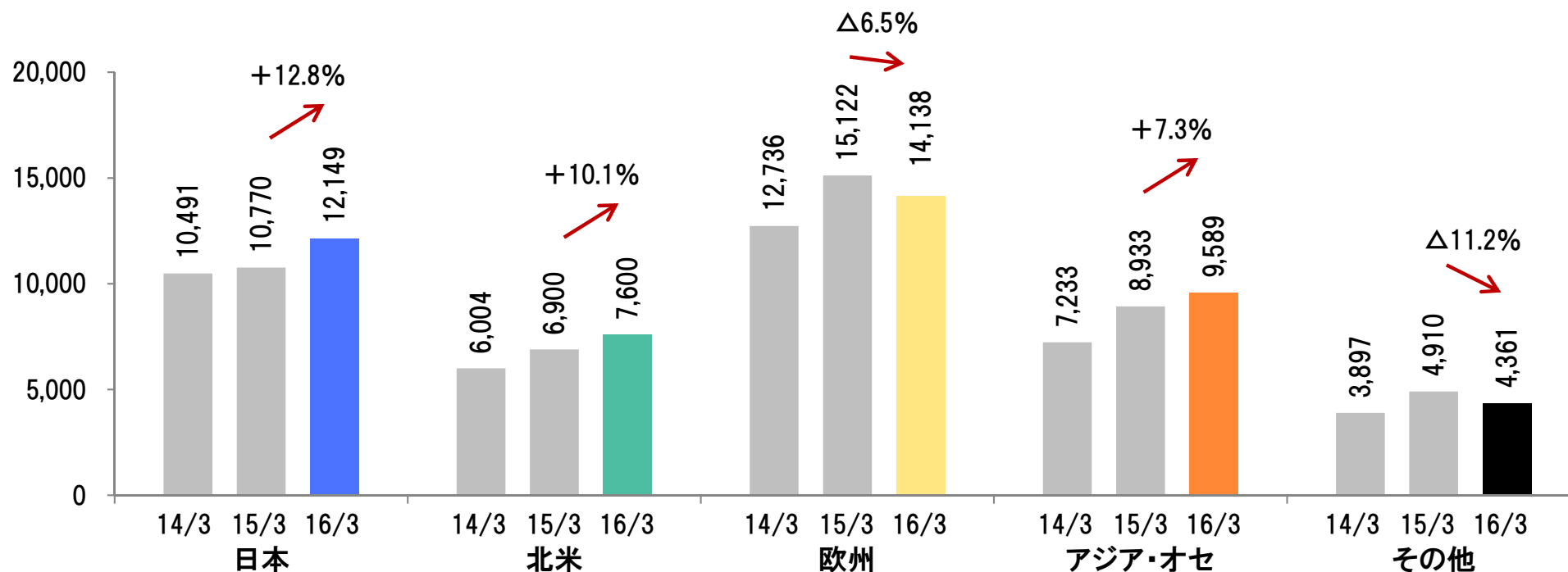
(単位:百万円)	通期				
	2015年3月期		2016年3月期		
	実績	構成比	実績	増減率	構成比
■ 本 体	25,044	53.7%	24,967	△0.3%	52.2%
■ イ ン ク	14,585	31.3%	15,455	+6.0%	32.3%
■ 保 守 部 品	3,271	7.0%	3,393	+3.7%	7.1%
■ そ の 他	3,736	8.0%	4,023	+7.7%	8.4%
合 計	46,637	100.0%	47,840	2.6%	100.0%



エリア別売上高

(2016年3月期)

(単位:百万円)	2015年3月期		2016年3月期		
	実績	構成比	実績	増減率	構成比
日本	10,770	23.1%	12,149	12.8%	25.4%
北米 (現地通貨/\$)	6,900 (62.7M\$)	14.8%	7,600 (63.2M\$)	10.1% (0.8%)	15.9%
欧州 (現地通貨/€)	15,122 (108.9M€)	32.4%	14,138 (106.6M€)	△6.5% (△2.1%)	29.6%
アジア・オセ	8,933	19.2%	9,589	7.3%	20.0%
その他	4,910	10.5%	4,361	△11.2%	9.1%
合計	46,637	100.0%	47,840	2.6%	100.0%



要約貸借対照表 (2016年3月31日現在)

(単位:百万円)		2015年 3月31日	2016年 3月31日	増減額	増減率
資産の部	現金及び預金	7,037	11,034	3,997	56.8%
	受取手形及び売掛金	7,726	7,888	161	2.1%
	たな卸資産	16,196	14,467	△ 1,728	△10.7%
	その他流動資産	2,811	2,289	△ 521	△18.6%
	流動資産合計	33,771	35,680	1,908	5.7%
	有形固定資産	8,135	8,972	836	10.3%
	無形固定資産	291	392	100	34.6%
	その他の資産	1,279	1,086	△ 193	△15.1%
固定資産合計	9,707	10,452	744	7.7%	
合計	43,479	46,132	2,653	6.1%	
負債・純資産の部	支払手形及び買掛金	7,535	6,867	△ 667	△8.9%
	短期借入金(※)	8,309	9,227	918	11.1%
	その他流動負債	5,920	5,031	△ 888	△15.0%
	流動負債合計	21,764	21,126	△ 637	△2.9%
	長期借入金	5,910	8,721	2,811	47.6%
	その他固定負債	611	641	30	4.9%
	固定負債合計	6,522	9,363	2,841	43.6%
	負債合計	28,286	30,490	2,203	7.8%
純資産合計	15,193	15,642	449	3.0%	
合計	43,479	46,132	2,653	6.1%	

❖ 資産の部

たな卸資産

- 商品及び製品 (△ 1,139M)
- 仕掛品 (△ 146M)
- 原材料及び貯蔵品 (△ 442M)

⇒ 社内プロジェクトとして体制を整えた結果、ほぼ適正水準まで在庫高を削減

❖ 負債の部

支払手形及び買掛金

- 原材料仕入高が減少したため (△667)

短/長期借入金

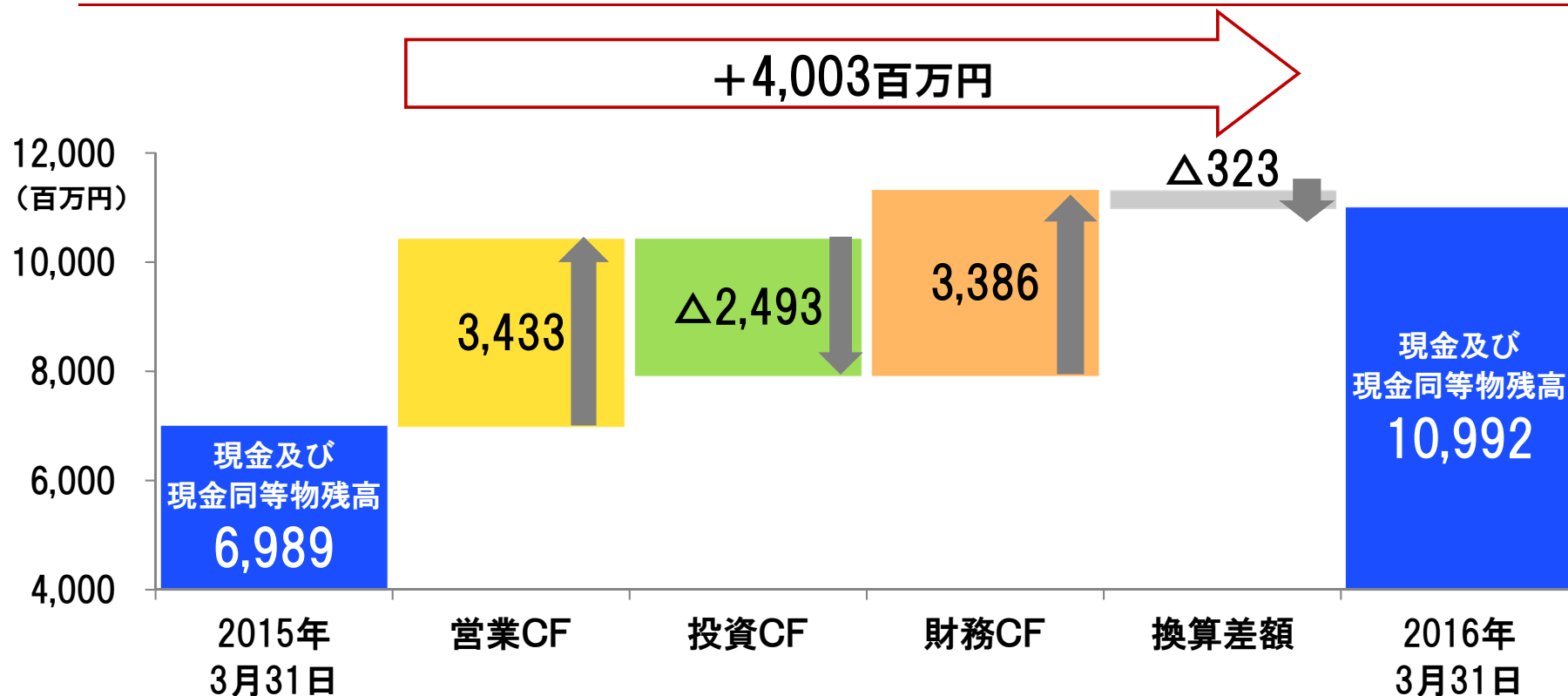
- 短期借入金 (+ 918M)
- 長期借入金 (+ 2,811M)

⇒ 低利の借入金で成長資金を確保

❖ 純資産の部

- 利益剰余金 (+ 1,278M)
- 為替換算調整勘定 (△ 707M)

キャッシュ・フロー (2016年3月期)



営業キャッシュ・フローの状況

EBITDA(※)	4,648
運転資金増加	206
税金、利払等	△ 1,421
合計	3,433

投資キャッシュ・フローの状況

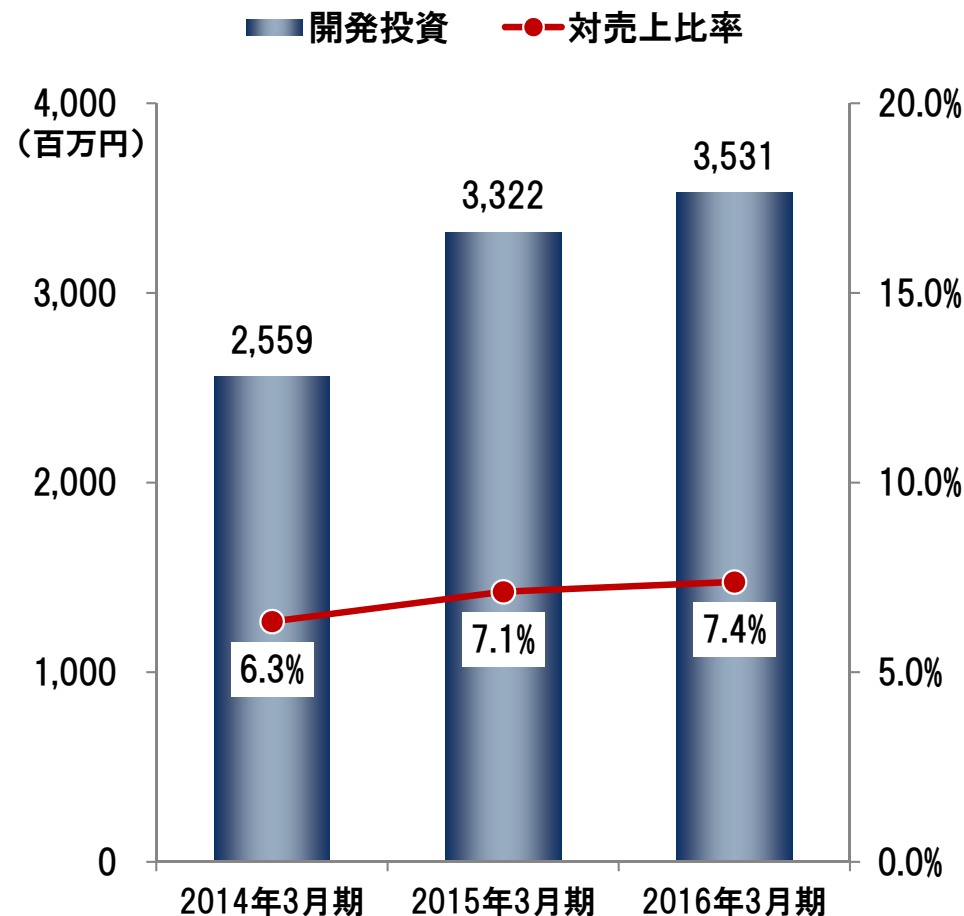
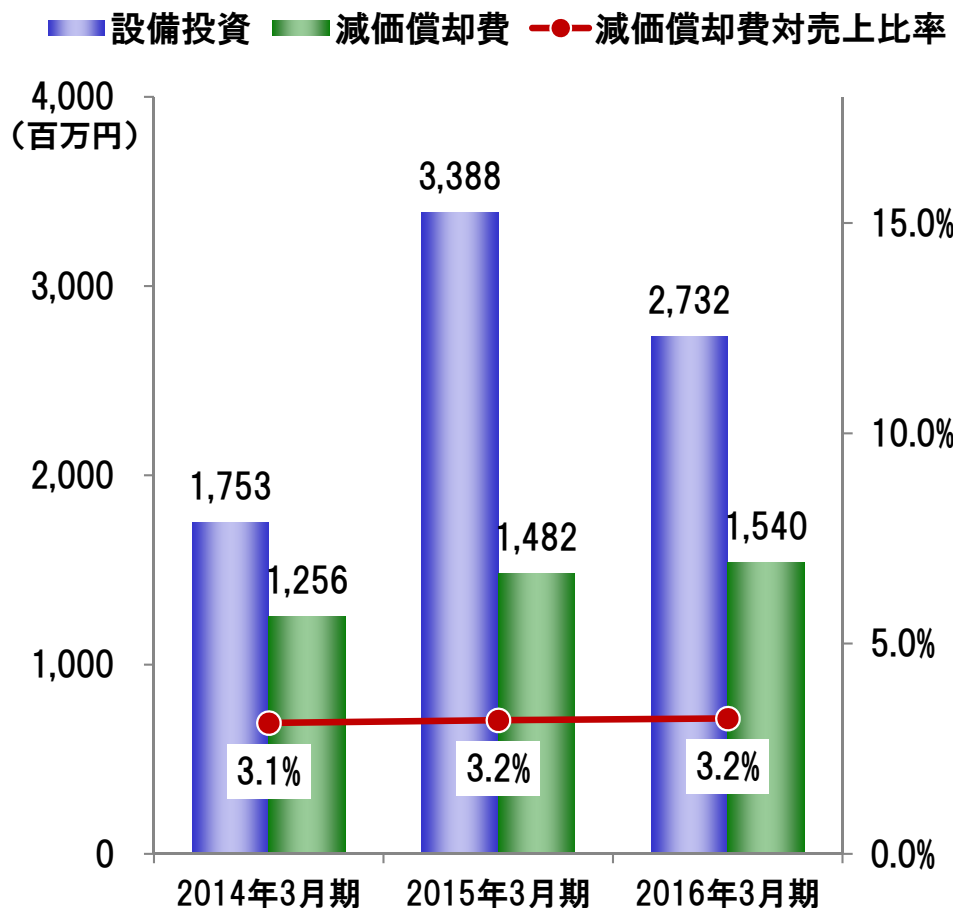
固定資産の取得	△ 2,590
固定資産等の売却	95
その他	1
合計	△ 2,493

財務キャッシュ・フローの状況

短・長期借入金収支	3,929
配当金	△ 439
その他	△ 103
合計	3,386

(※) 利払前、税払前、償却前の営業利益

設備投資、減価償却、開発投資



※ 主な設備投資(2016年3月期)

- 加沢工場の解体・増床工事 13億9百万円
- デモ機(当社製品) 4億26百万円
- 金型 3億83百万円

※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。
各会計年度の販管費における「研究開発費」は、14/3期12億45百万円、15/3期20億54百万円、16/3期23億18百万円です。

自己株式取得の実施

◆ 目的

- ① 1株利益やROEの改善を通じた株主還元
- ② 当社株式の需給バランスの引き締め
- ③ 自己株式を保有して将来的に戦略的に活用する

取得総額

10億円(上限)

取得株式総額

100万株(上限)
(発行済株式総数(自己株式除く)の3.19%)

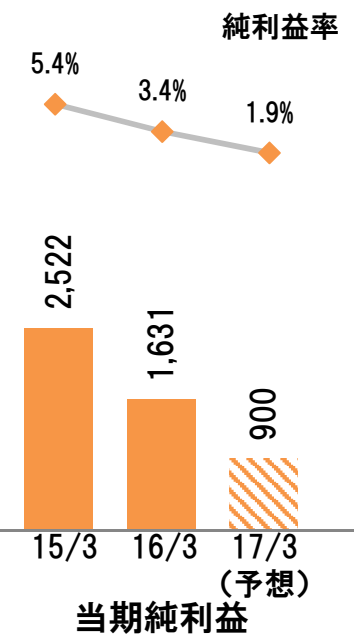
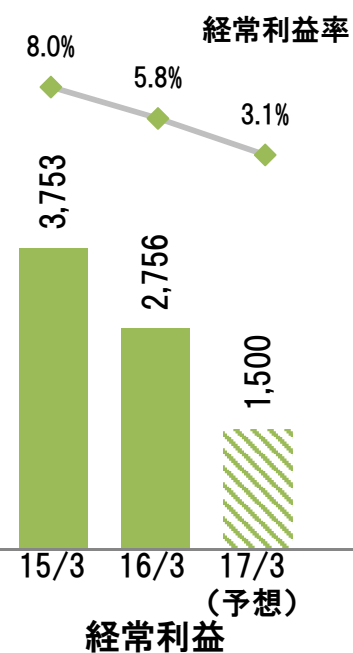
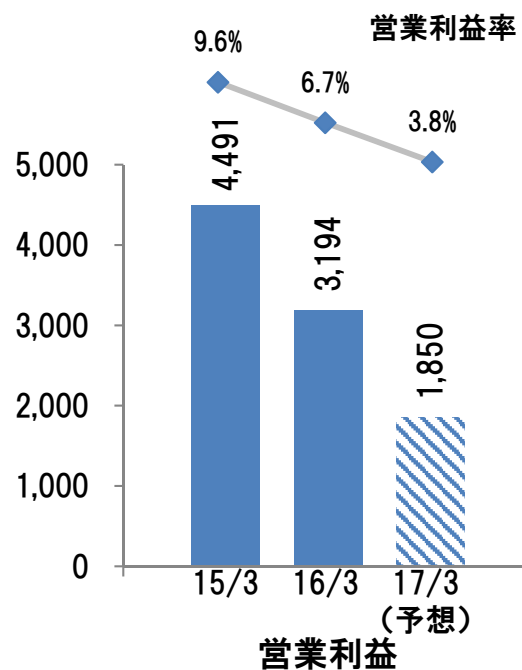
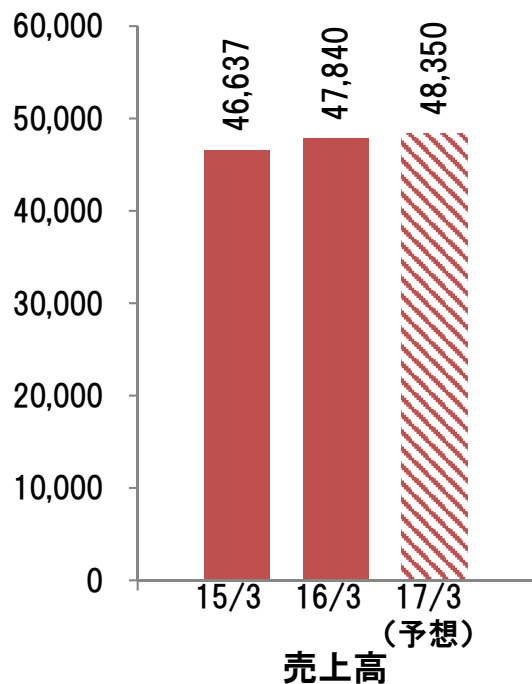
取得期間

2016年2月10日～2017年2月9日

- ❖ 2016年3月期の連結業績実績
- ❖ 2017年3月期の連結業績見通し
- ❖ 中長期・成長ビジョン
- ❖ ご参考資料

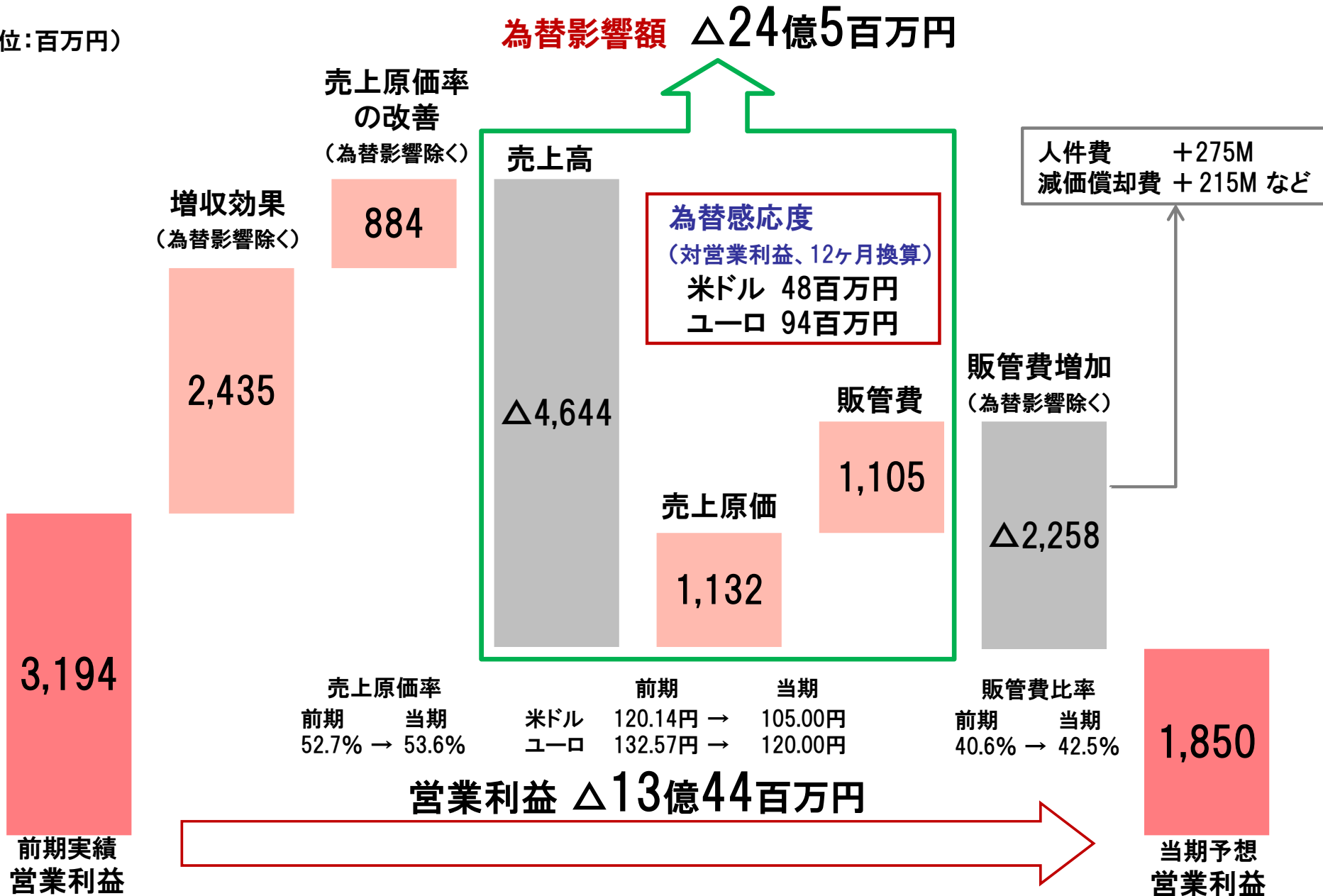
連結業績予想ハイライト (2017年3月期)

(単位:百万円)	2016年3月期(第41期)		2017年3月期(第42期)					
	通期	売上比	上期	下期	通期	増減額	増減率	売上比
■ 売上高	47,840	—	23,750	24,600	48,350	509	1.1%	—
■ 営業利益	3,194	6.7%	600	1,250	1,850	△ 1,344	△42.1%	3.8%
■ 経常利益	2,756	5.8%	450	1,050	1,500	△ 1,256	△45.6%	3.1%
■ 当期純利益	1,631	3.4%	250	650	900	△ 731	△44.8%	1.9%
為替 米ドル	120.14円	—	105.00円	105.00円	105.00円	△15.14円	△12.6%	—
(期中平均) ユーロ	132.57円	—	120.00円	120.00円	120.00円	△12.57円	△9.5%	—



営業利益増減要因（16年3月期 vs 17年3月期）

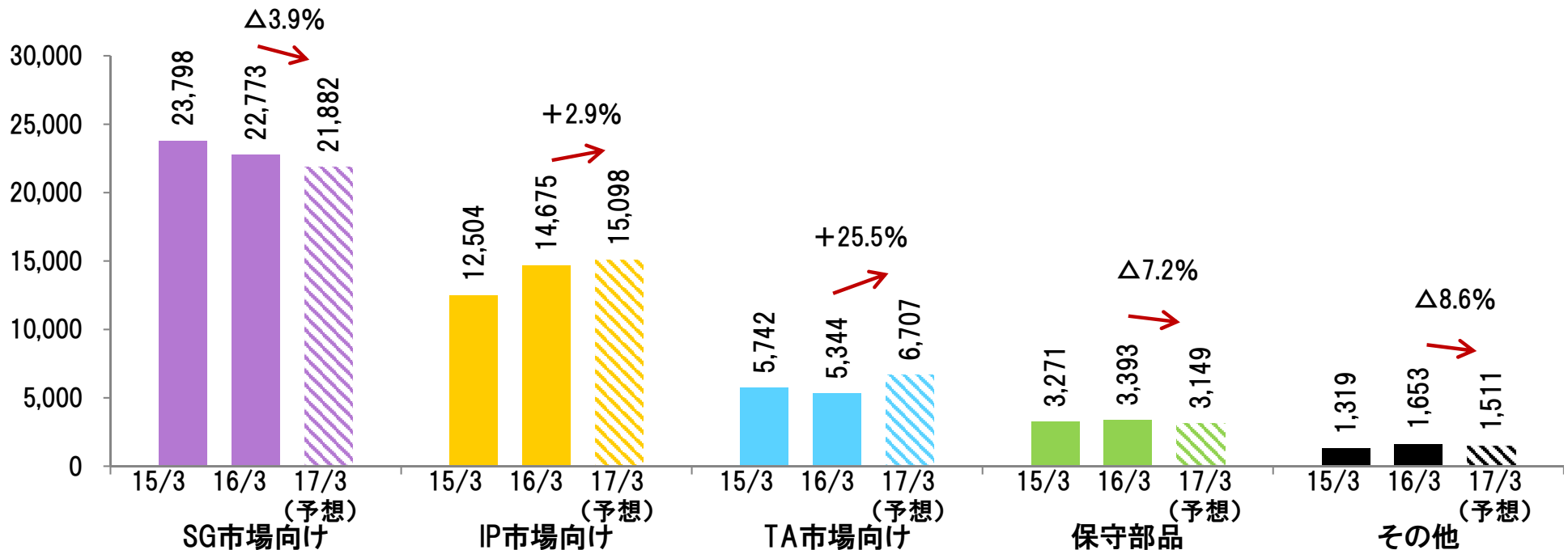
（単位：百万円）



市場別売上高予想

(2017年3月期)

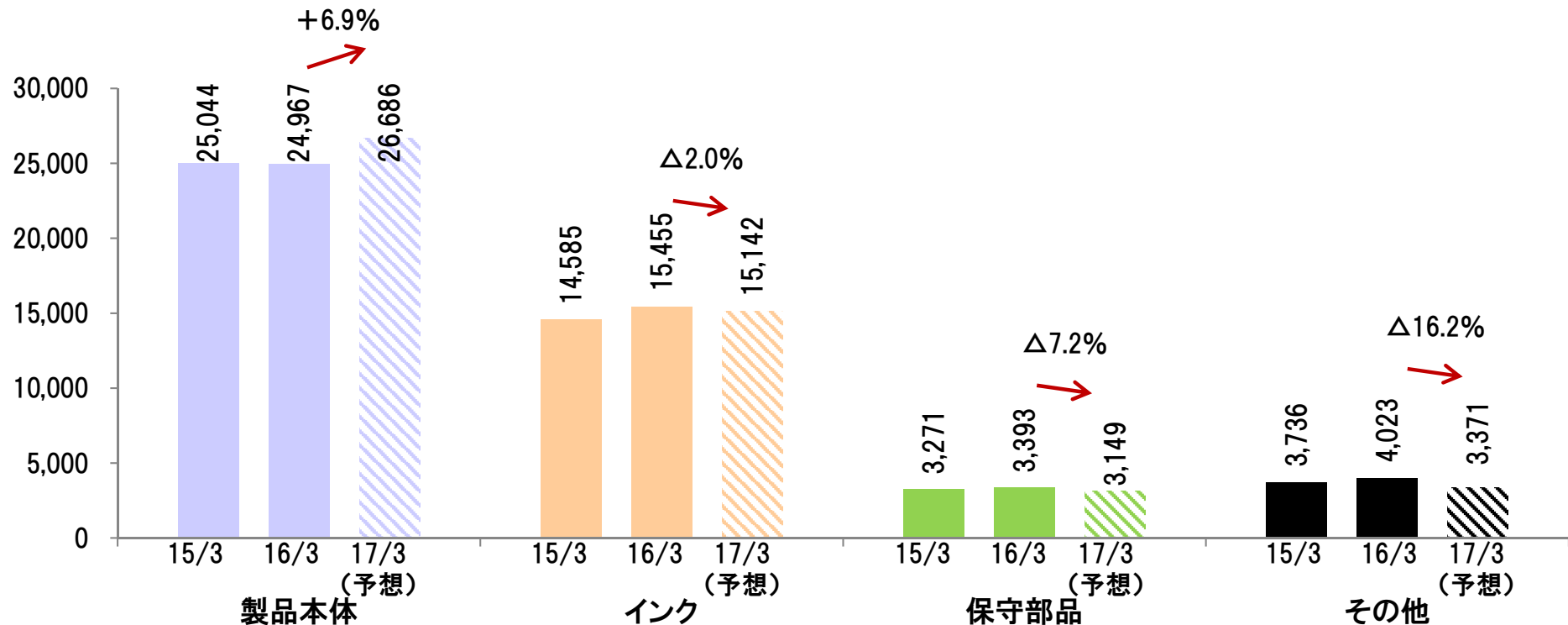
(単位:百万円)	2016年3月期(第41期)		2017年3月期(第42期)					
	通期	構成比	上期	下期	通期	増減額	増減率	構成比
SG市場向け	22,773	47.6%	10,901	10,981	21,882	△ 890	△3.9%	45.3%
IP市場向け	14,675	30.6%	7,293	7,805	15,098	423	2.9%	31.2%
TA市場向け	5,344	11.2%	3,296	3,410	6,707	1,362	25.5%	13.9%
保守部品	3,393	7.1%	1,605	1,543	3,149	△ 244	△7.2%	6.5%
その他	1,653	3.5%	651	859	1,511	△ 141	△8.6%	3.1%
合計	47,840	100.0%	23,750	24,600	48,350	509	1.1%	100.0%



品目別売上高予想

(2017年3月期)

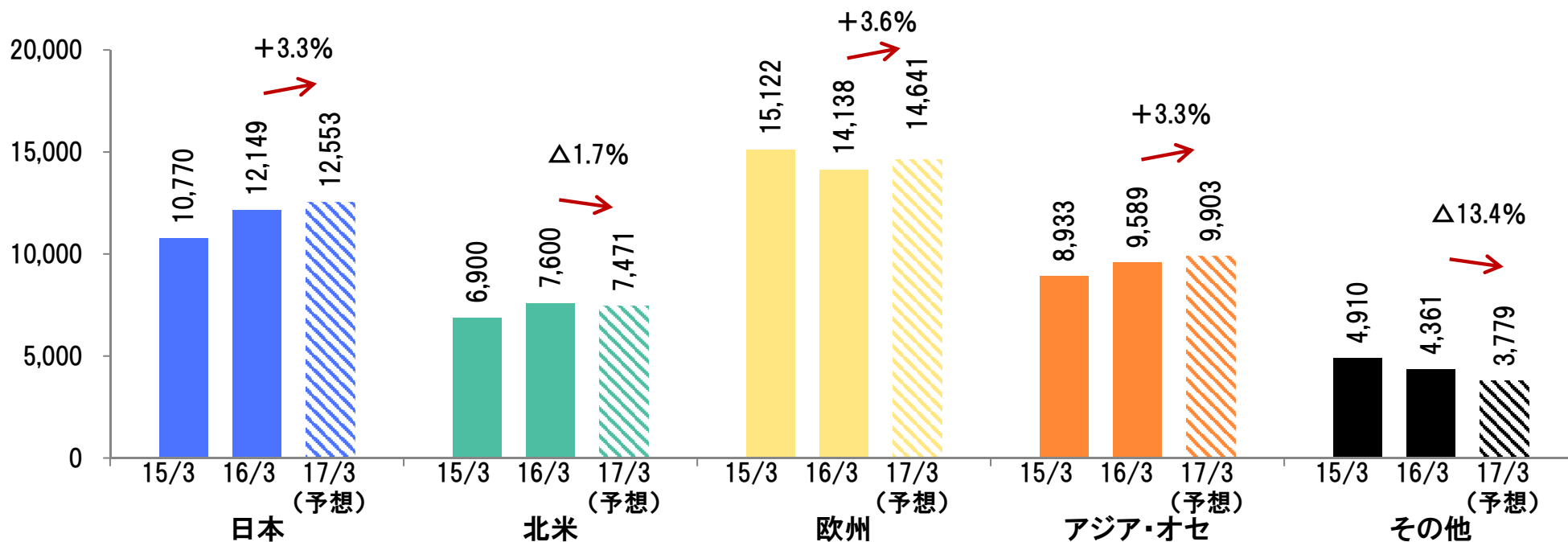
(単位:百万円)	2016年3月期(第41期)		2017年3月期(第42期)					
	通期	構成比	上期	下期	通期	増減額	増減率	構成比
■ 本 体	24,967	52.2%	12,967	13,719	26,686	1,718	6.9%	55.2%
■ イ ン ク	15,455	32.3%	7,503	7,639	15,142	△ 313	△2.0%	31.3%
■ 保 守 部 品	3,393	7.1%	1,605	1,543	3,149	△ 244	△7.2%	6.5%
■ そ の 他	4,023	8.4%	1,673	1,697	3,371	△ 652	△16.2%	7.0%
合 計	47,840	100.0%	23,750	24,600	48,350	509	1.1%	100.0%



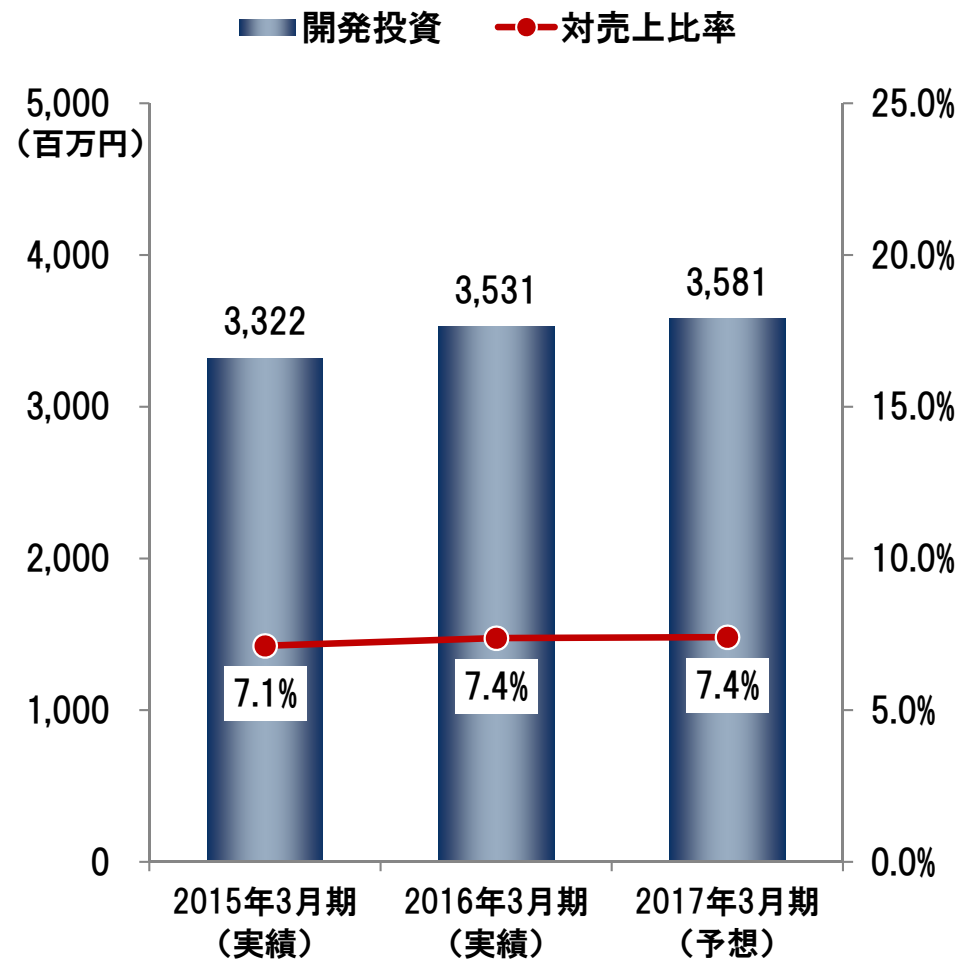
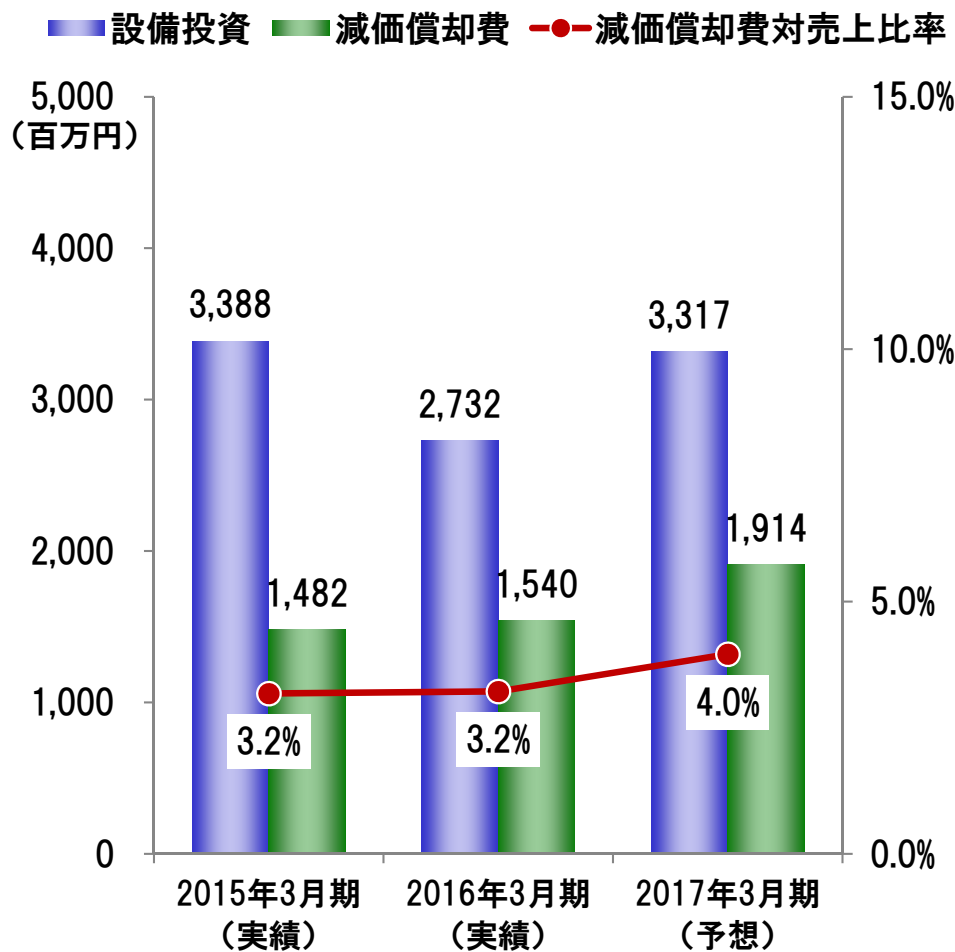
エリア別売上高予想

(2017年3月期)

(単位:百万円)	2016年3月期(第41期)		2017年3月期(第42期)					
	通期	構成比	上期	下期	通期	増減額	増減率	構成比
■ 日本	12,149	25.4%	6,103	6,449	12,553	404	3.3%	26.0%
■ 北米 (現地通貨/\$)	7,600 (63.2M\$)	15.9%	3,615 (34.4M\$)	3,856 (36.7M\$)	7,471 (71.1M\$)	△ 128 (7.8M\$)	△ 1.7% (12.5%)	15.4%
■ 欧州 (現地通貨/€)	14,138 (106.6M€)	29.6%	7,253 (60.4M€)	7,388 (61.5M€)	14,641 (122.0M€)	503 (15.3M€)	3.6% (14.4%)	30.3%
■ アジア・オセ	9,589	20.0%	4,856	5,047	9,903	313	3.3%	20.5%
■ その他	4,361	9.1%	1,921	1,857	3,779	△ 582	△ 13.4%	7.8%
合計	47,840	100.0%	23,750	24,600	48,350	509	1.1%	100.0%



設備投資、減価償却、開発投資予想



※ 主な設備投資計画(2017年3月期)

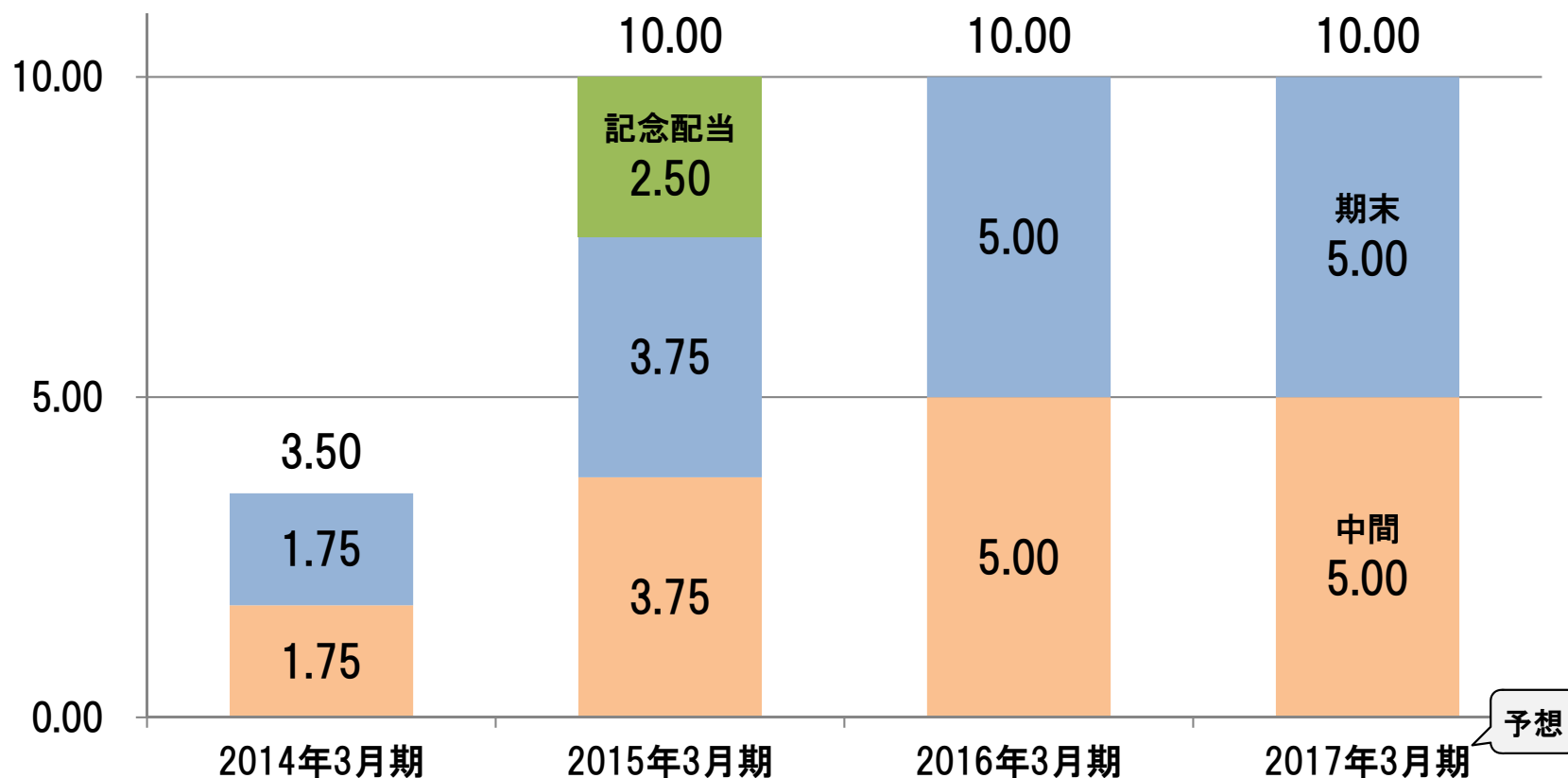
- 本社基幹システム構築 5億42百万円
- 子会社建物・土地 4億円
- 金型 3億33百万円
- デモ機(当社製品) 3億20百万円

※ 上記の金額は、研究開発活動に係る費用の総額を示すもので、既存製品の改良、応用等に関する費用が含まれております。
各会計年度の販管費における「研究開発費」は、15/3期20億54百万円、16/3期23億18百万円、17/3期23億2百万円です。

配当予想（2017年3月期）

配当方針

株主の皆様に対する利益還元を経営の重要政策と位置付け、業績の成長に見合った成果の配分を、安定的かつ継続的に行っていくことを基本方針としております。



(注) 2015年4月1日付で1対2の株式分割をしております。
上記グラフでは、過去との比較を容易にするため、株式分割を考慮して表示しております。

- ❖ 2016年3月期の連結業績実績
- ❖ 2017年3月期の連結業績見通し
- ❖ **中長期・成長ビジョン**
- ❖ ご参考資料

事業の変遷

自動化設備事業、水晶振動子 1975年～1989年ごろまで（1989年4月に当該事業を分社）

ドラフティングプロッタ 1985年～1995年ごろまで（現在は撤退）

1987年～ カuttingプロッタ

1996年～ インクジェットプリンタ

1987年(SG市場向け)
カuttingプロッタ

1996年(SG市場向け)
屋外看板用途・広幅インクジェットプリンタ

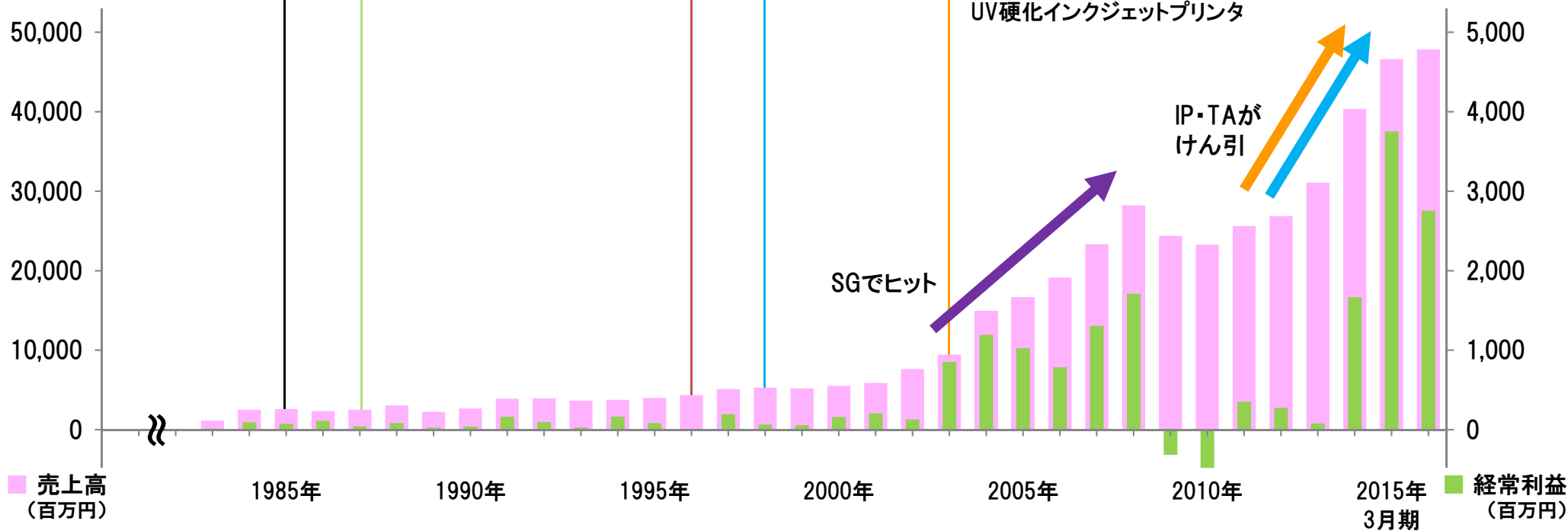
1998年(TA市場向け)
テキスタイル捺染インクジェットプリンタ

2004年(IP市場向け)
UV硬化インクジェットプリンタ

SG市場
(広告・看板)

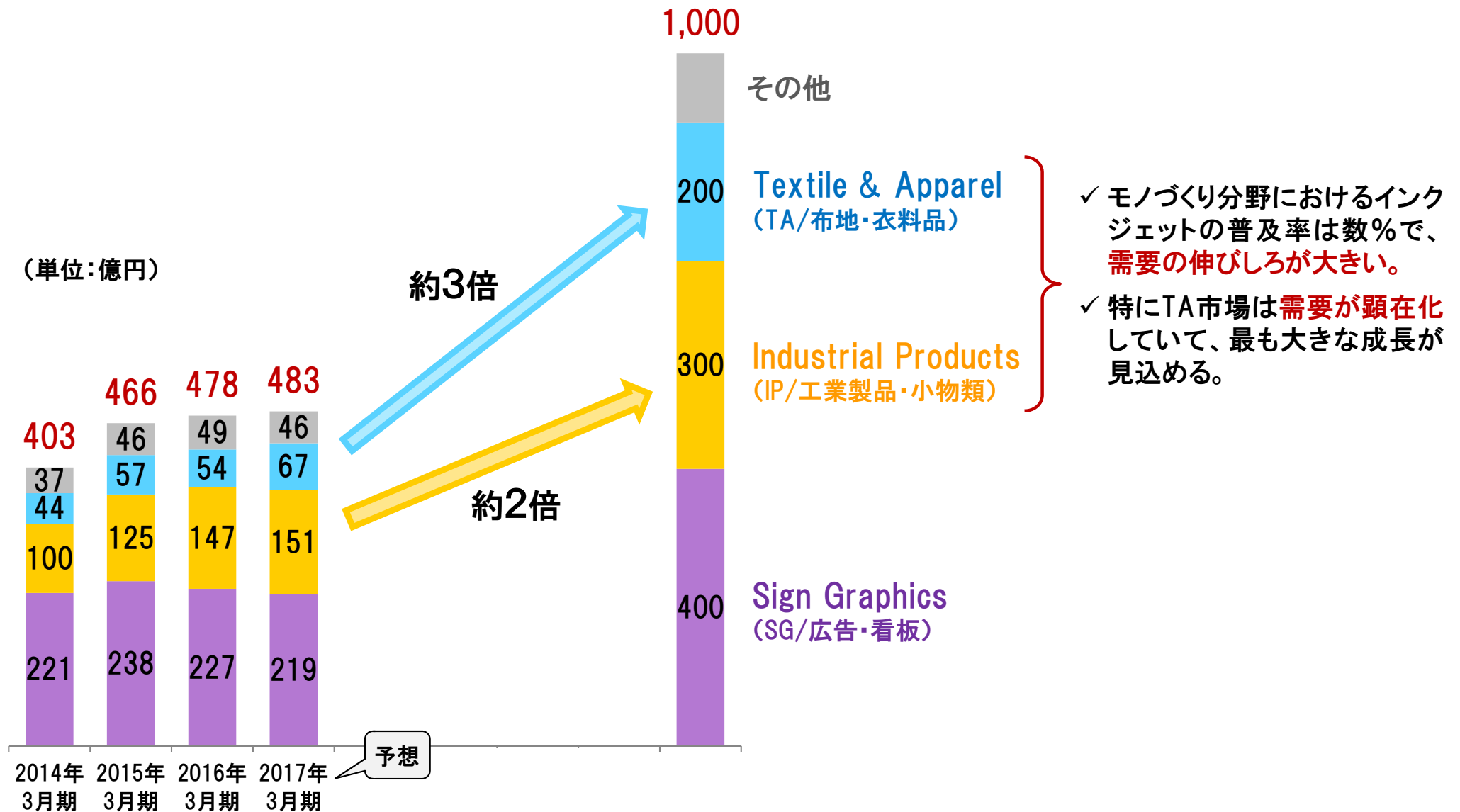
TA市場
(衣料品)

IP市場
(工業製品)



1000億円企業を目指す（長期ビジョン:M1000）

➤ IP・TAの事業をSGに並ぶ第2、第3の柱へ



SG市場 (Sign Graphics/広告・看板)

手書き



カット・切り文字



デジタル

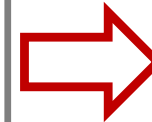
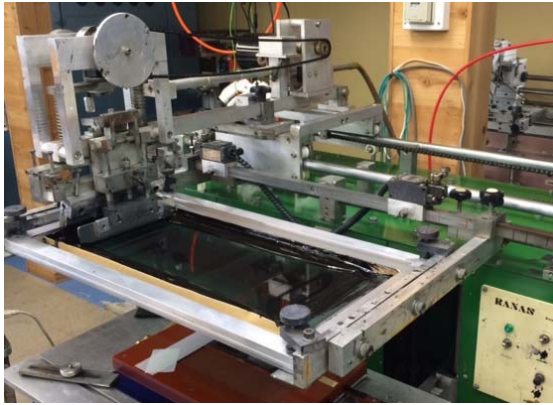


JV300-130/160



IP市場（Industrial Products/工業製品・小物類）

スクリーン印刷／パッド印刷



デジタル



UJF-7151 plus



TA市場 (Textile & Apparel/ 布地・衣料品)

手捺染



オートスクリーン



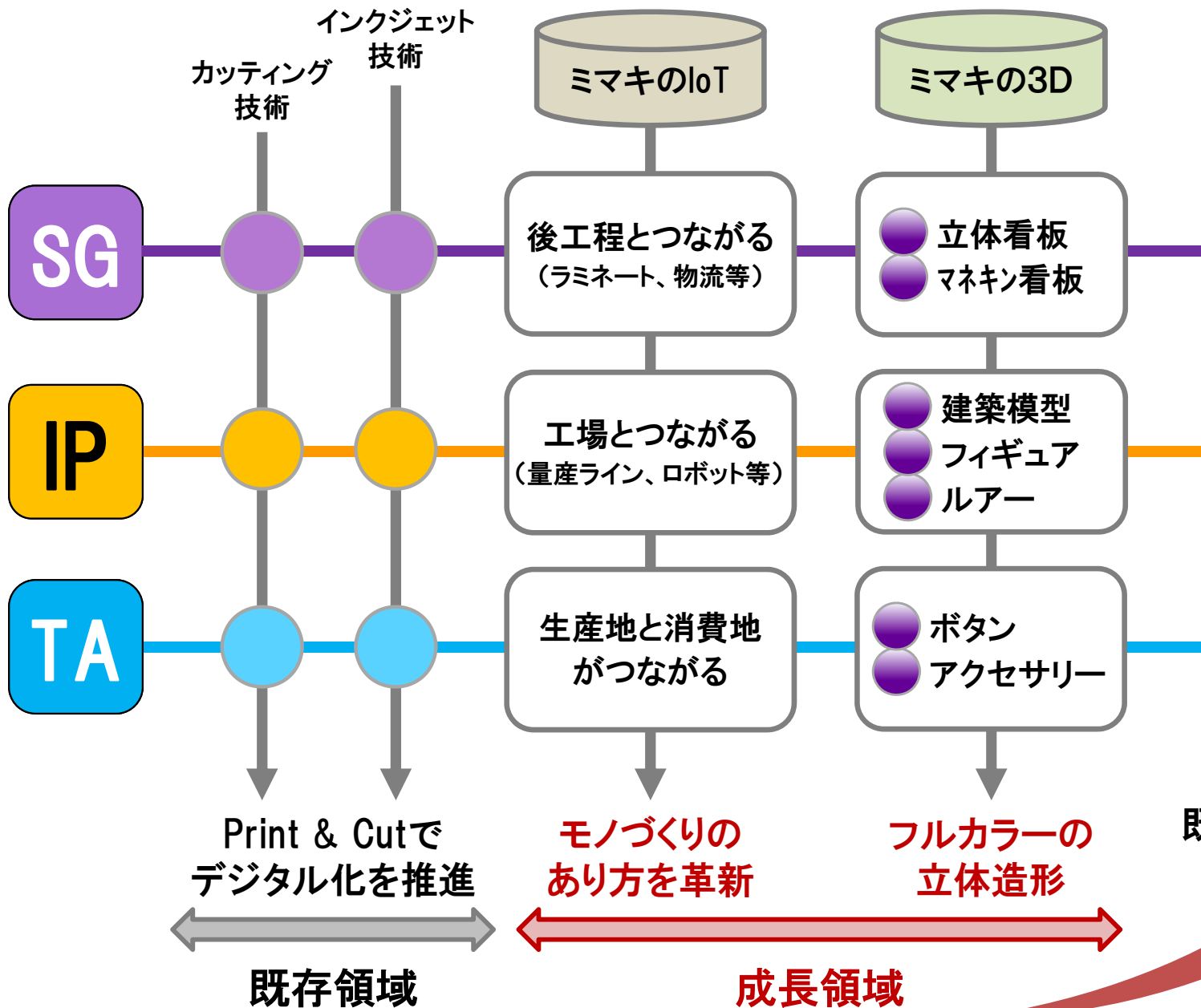
デジタル



TS500P-3200



新しさと違いを提供するイノベーター



20~30億円を事業単位とした**“ぶどうの房”**のような構造で1,000億円企業を目指す。



既存領域でトップを取り、成長領域で先駆者となる

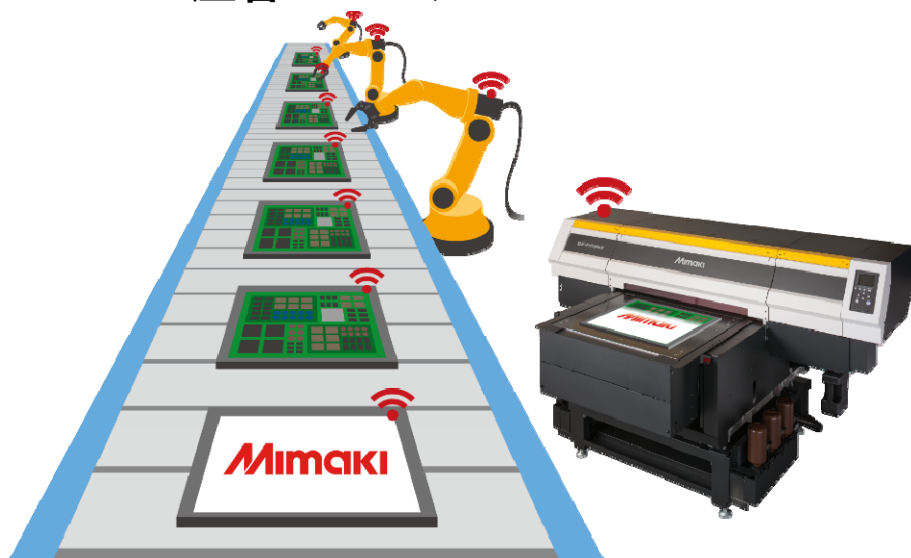
ミマキのIoT (Internet of Things)

➤ ミマキ製品が情報でつながる

IP

① 工場でつながる

- ✓ 量産ライン
- ✓ ロボット
- ✓ 生産管理システム



- 【高速化】 量産ラインに遅れを取らない生産性
- 【無人化】 カメラ等のセンシング技術で補完
- 【自動化】 生産管理システムと情報共有

TA

② 生産地と消費地がつながる

- ✓ 生産地との情報共有 (デザイン etc)
- ✓ カラーマネジメント (品質も色も同じ)

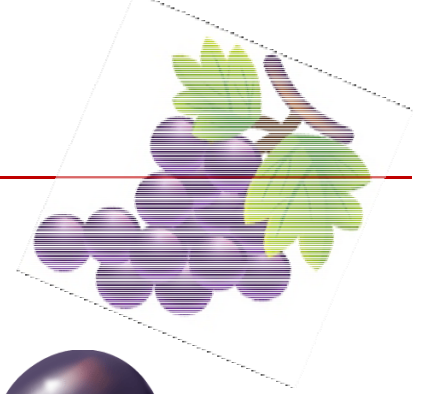
↑
マス・カスタマイゼーション
(白モノに売れた分だけプリント)



③ 一般消費者とつながる

- ✓ 一品一様、究極のオンデマンド生産

ミマキの3D



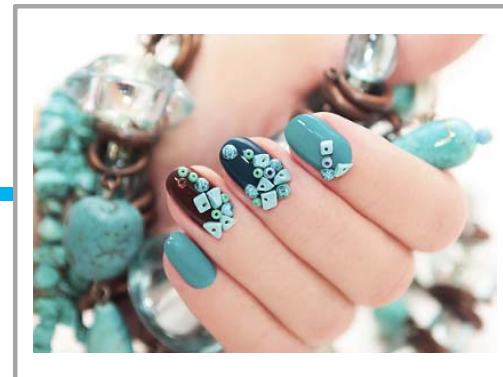
SG



IP



TA



真のグローバル企業を目指す

開発

オープン・イノベーション

(外部のスキル、アイデアをグローバルに取り入れ、新たなコア技術を創造)

販売

地域密着の営業・サービスをグローバル展開

(ラボセンターと連携し、技術面でのサポートを強化)

生産

インクのグローバル生産

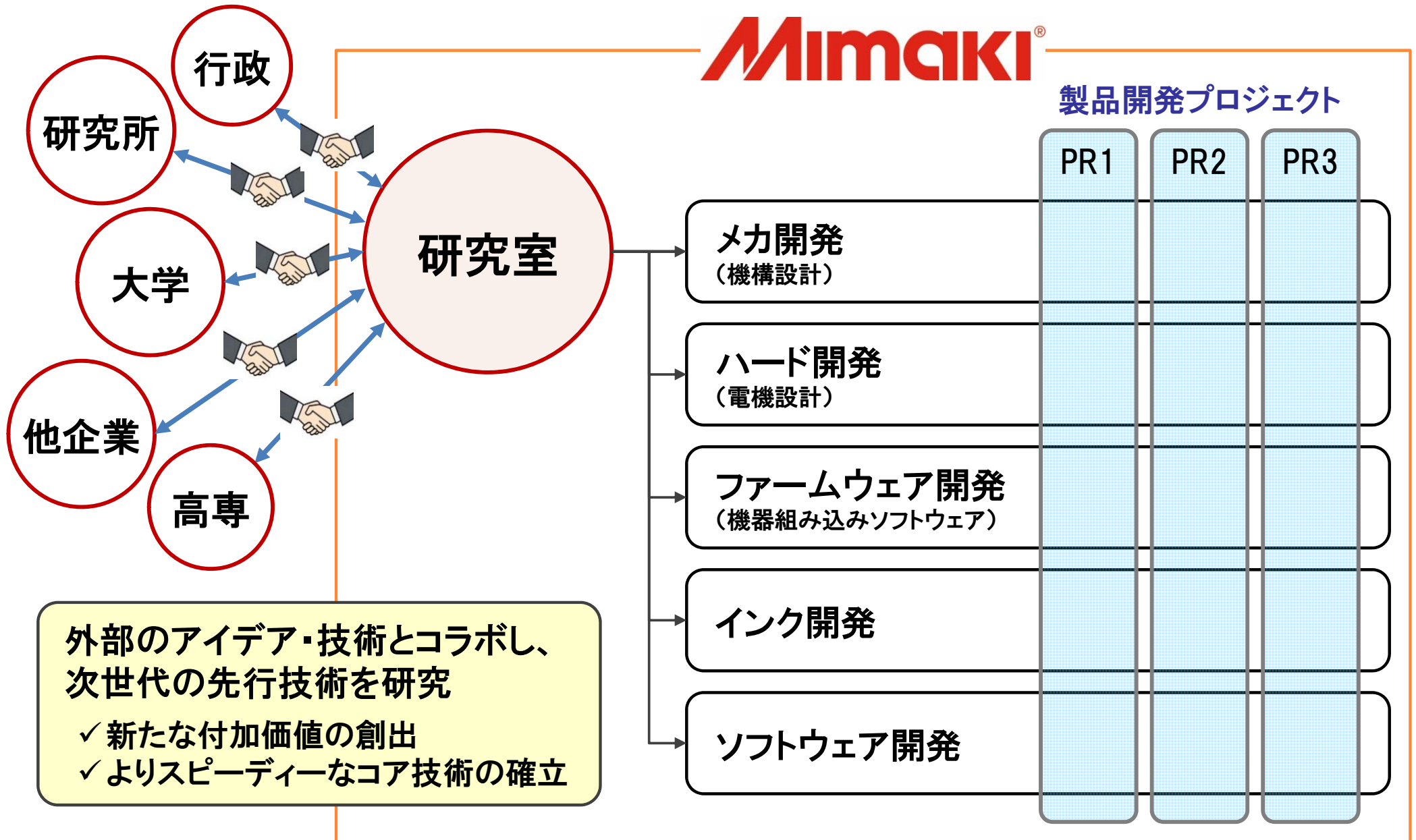
(消費地の近くで生産し、競争力のあるコスト構造へ)

管理

GIPSのグローバル展開

(Group Independent Profitability management System/部門別独立採算管理)

オープン・イノベーション



地域密着の営業・保守サービス体制

世界中の各地域に密着し、

- ミマキのお客様を創る
- お客様の利益を最大化する

お客様とともに

市場創造

- IP** より産業的な用途
- TA** ピュアテキスタイル

アフターセールス・アプローチ

- ✓ トラブルを迅速に復旧する保守サービス
- ✓ 利益を生み出す“使いこなし”サポート

テクニカル・アプローチ

- ✓ デジタル生産システムを構築するための技術面での課題解決

プリセールス・アプローチ

- ✓ 顧客ニーズの迅速把握
- ✓ デジタル・オンデマンド生産のメリットを提案

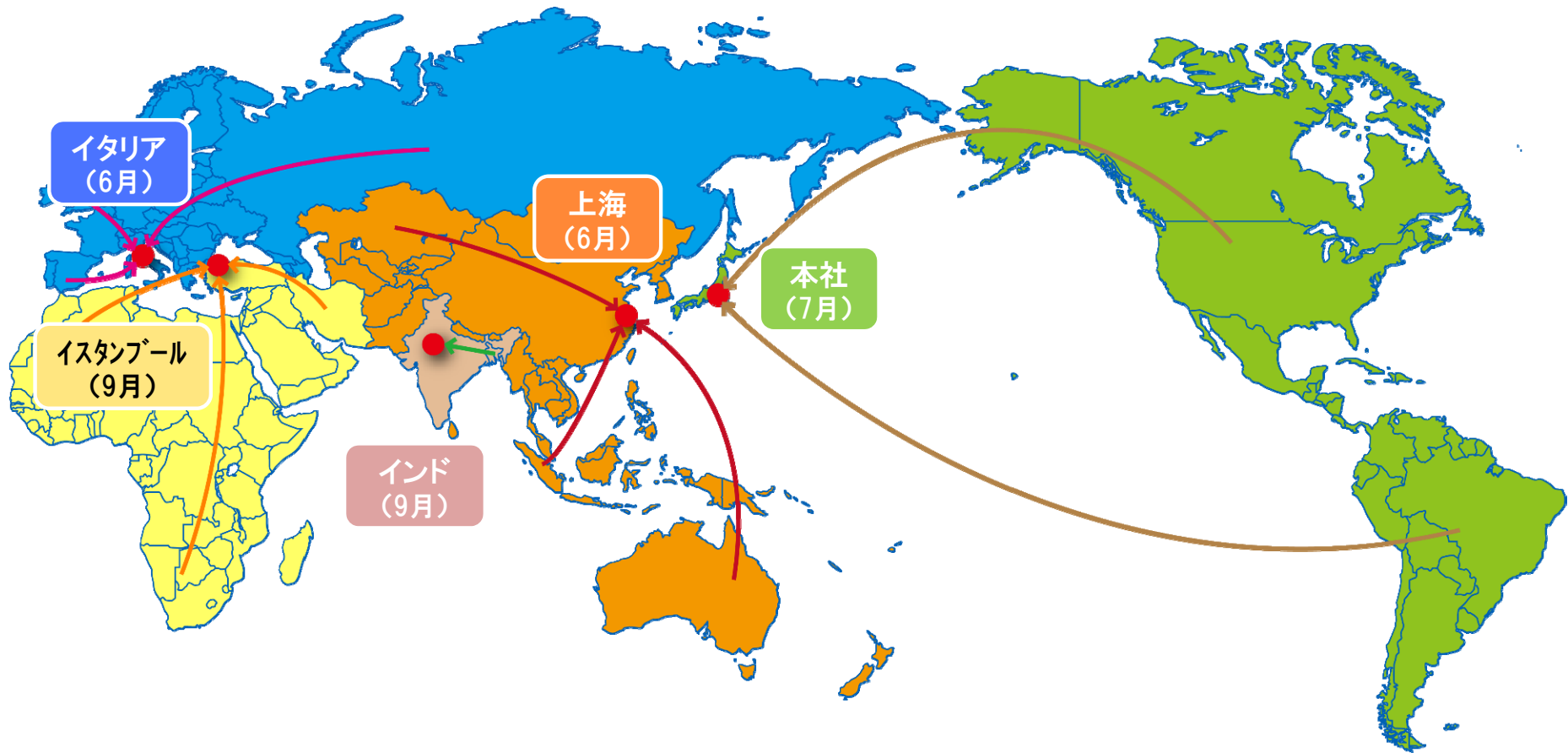




本社と海外拠点にIPラボセンターを開設

- ✓ お客様の持ち込み素材にプリントするための最適条件をテストする。
(まず現地でテストし、解決しない場合は本社で技術スタッフがテスト。全世界のお客様ニーズに応える。)

TA ラボセンターのグローバル展開



本社と主要な生産地にTAラボセンターを開設

- ✓ 各産地によって水や入手できる薬剤、後処理機が異なるため、最適な条件を現地でテストする。
- ✓ 前処理から後処理までのトータルサポートで、ピュアテキスタイル分野の需要を深耕する。

インクのグローバル生産

インク売上比率を **30%以上** 維持
→ 安定的な消耗品ビジネスが見込める



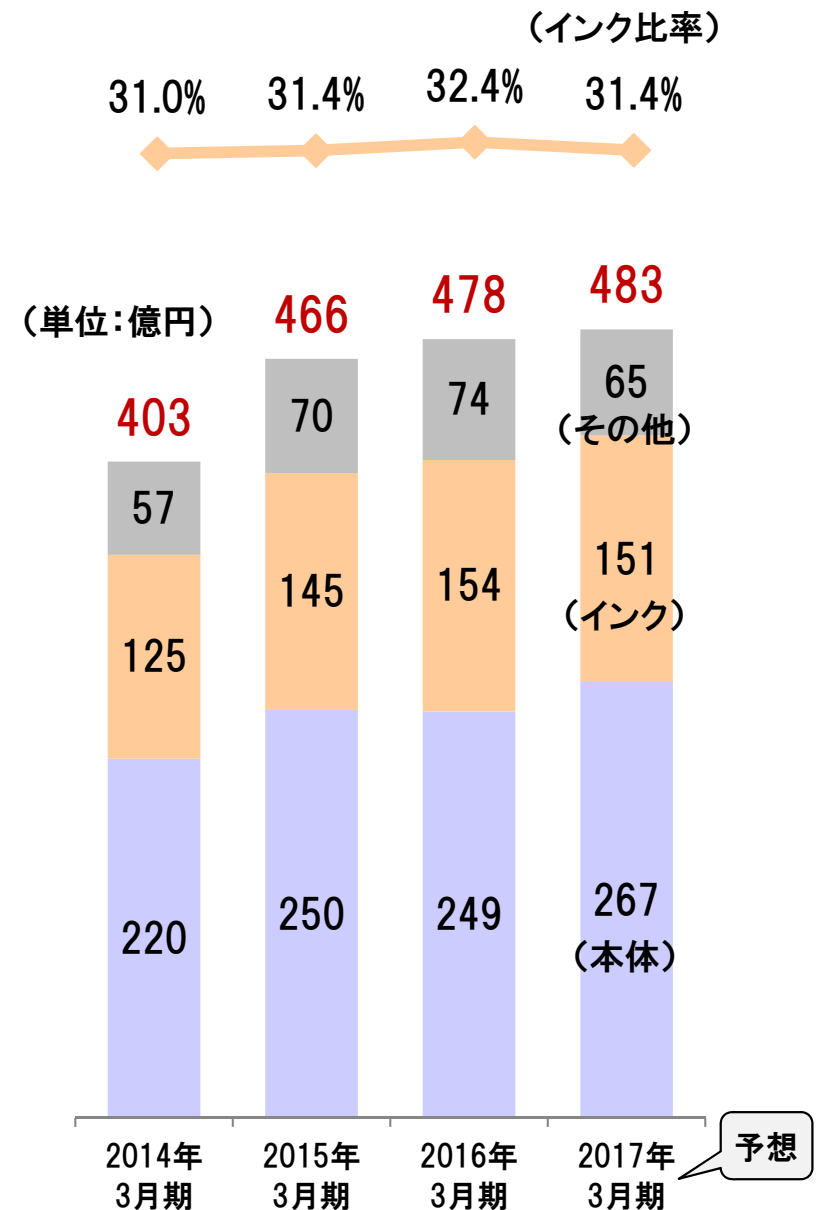
マーケットが大きい欧州で現地生産に踏み切る。

※ 販売子会社のある**オランダに製造拠点を設け**、
2017年3月期中の稼働開始を目指す。
(日本、中国に続く第3番目の製造拠点となる。)

※ 今後、段階的にインク生産のグローバル化を
進めていく方針

【メリット】

✓ 輸出コスト、リードタイムの削減



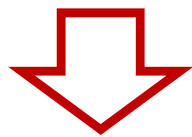
GIPSのグローバル展開

GIPS=Group Independent Profitability management System / 部門別独立採算管理

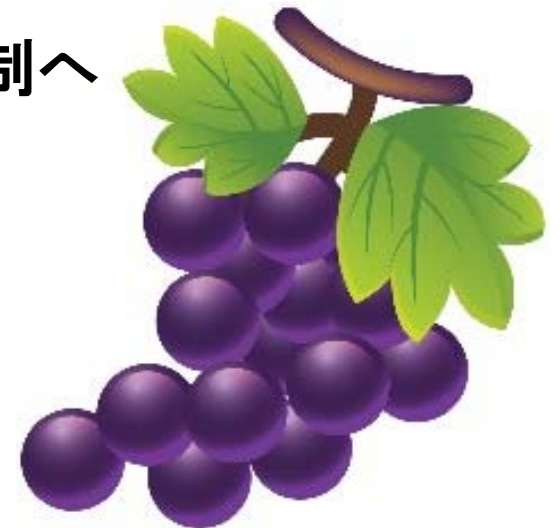
- ✓ 小集団ごとの独立採算
- ✓ 各小集団、各個人が果たすべき成果を明確化

社員全員が経営に参画し、ひとり一人が採算意識を持ち、信頼をベースとした“ぶどうの房”のような小さな果実の集合体として、ミマキグループの持続的な発展を果たす。

日本の本社がグループ各社を統括する体制から、権限委譲して、各社が自律的に判断して行動する体制へ



環境変化への対応力を高め、
スピード経営を実現する。

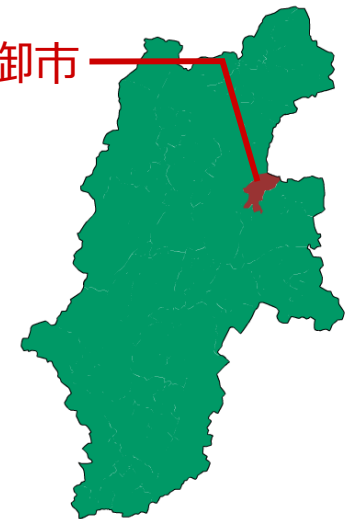


- ❖ 2016年3月期の連結業績実績
- ❖ 2017年3月期の連結業績見通し
- ❖ 中長期・成長ビジョン
- ❖ **ご参考資料**

プロフィール

設立	1975年8月
資本金	4,357百万円
本社	長野県東御市滋野乙2182-3
代表者	代表取締役会長 池田 明 代表取締役社長 池田 和明
従業員数	連結：1,449名 / 単体：755名 *2016年3月末現在
グループ会社 (計15社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売関連：11社 <ul style="list-style-type: none"> 欧州：ミマキEUROPE(オランダ)、ミマキドイツ、ミマキEURASIA(トルコ) 北米、中南米：ミマキUSA、ミマキブラジル アジア・オセアニア：上海御牧、ミマキインドネシア、ミマキシンガポール、ミマキオーストラリア、ミマキインド、台湾御牧* ・ 開発、製造関連：4社 (*製造事業も展開) <ul style="list-style-type: none"> 国内：(株)ミマキプレジジョン 中国：浙江御牧、平湖御牧 台湾：台湾御牧 ・ プリントサービス関連：1社 <ul style="list-style-type: none"> 国内：(株)グラフィッククリエーション
上場市場	東京証券取引所 市場第一部 / 証券コード 6638
発行済株式総数	32,040,000株 (単元株=100株) *2016年3月末現在

長野県東御市

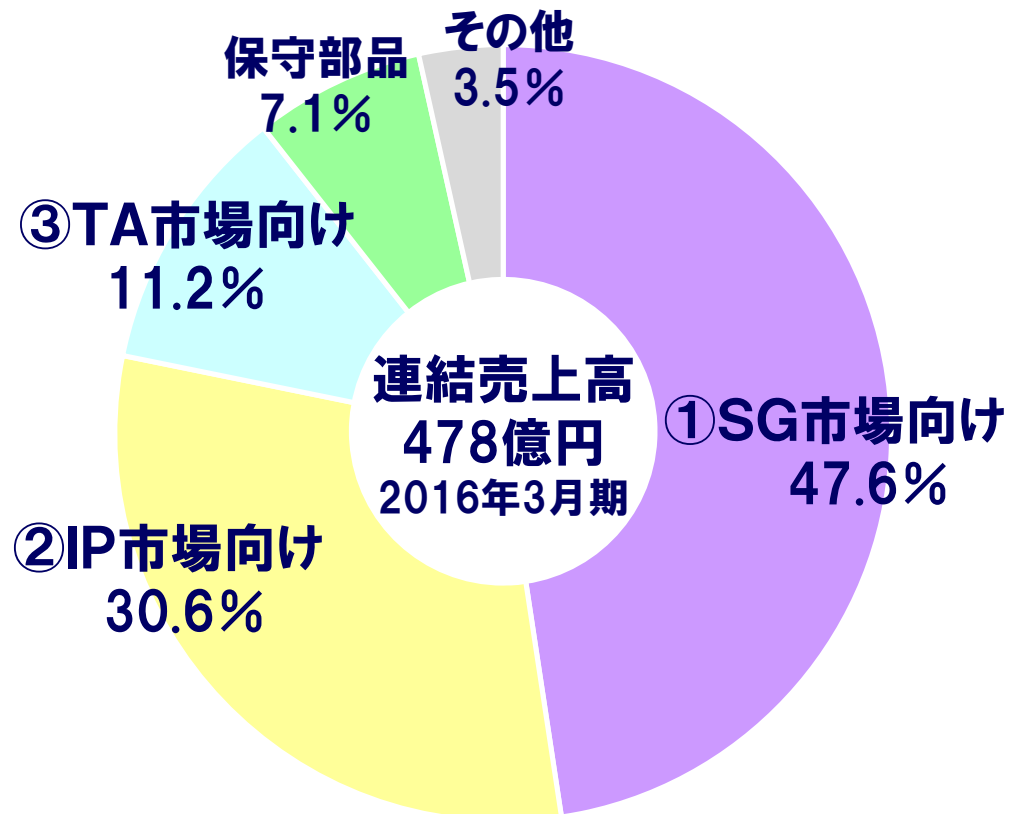


(*台湾御牧は販売も製造も行っている為、1社としてカウント)

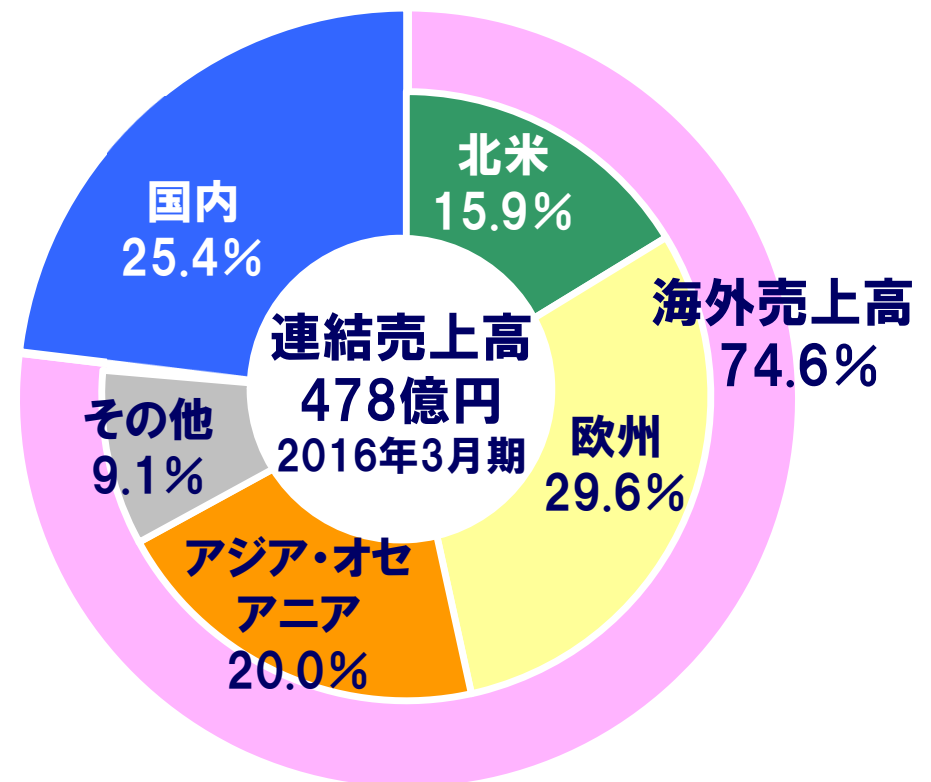
事業概要

インクジェットプリンタとカッティングプロッタの技術を基に
3つの販売市場でグローバルに事業展開

3つの販売市場



グローバル展開



アワード 2015

2015年にドイツ、アメリカで開催された展示会にて受賞した製品

ハイパフォーマンス フラットベッド UV インクジェットプリンタ

UJF-7151 plus



- 新しいプリントテーブル構造が高精度プリントを実現
- 最大プリントエリア 710 × 510 mm (28 × 20 in)
- 3.3m²/h の生産性
- インク循環プリントヘッド搭載で安定プリント生産

展示会: SGIA Expo 2015 / 受賞: プロダクトオブザイヤー / カテゴリ: スモールフラットベッド

ソルベントUV インクジェットプリンタ

JV400SUV



- 世界初 ソルベントUVインク搭載
- バナー素材への耐久プリント
- UVライトでプリント後即時硬化
- 美しく艶やかな仕上がり

Exhibition: SGIA Expo 2015 / Award: Product of the year / Category: Roll-to-Roll UV

昇華転写 インクジェットプリンタ

TS300P-1800



- 最速 115m²/h の生産性
- 高ヘッドギャップ設定での安定プリント
- 独自のプリントテクノロジーで美しいプリントを実現

Exhibition: Viscom Dusseldorf / Award: Best of 2015 / Category: Textile finishing

経営ビジョン

1

独自技術を保有し、自社ブランド製品を世界に供給する「**開発型企业**」を目指します。

2

顧客に満足いただける製品を素早く提供する**小回りの利いた会社**を目指します。

3

市場に常に「**新しさと違い**」を提供する**イノベーター**を目指します。

4

各人が持っている**個性・能力**を**力一杯発揮**できる**企業風土**を目指します。

本資料に関するお問合せ先

株式会社 **ミマキエンジニアリング**

IR部

TEL 0268(64)2281

E-mail mimaki-ir@mimaki.jp

〔本資料お取扱い上のご注意〕

本資料は、株式会社ミマキエンジニアリング(以下、当社)を理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。